

Book Review



フツアの歯科医院でもムリなくできる スタートアップ！ 口腔機能低下症

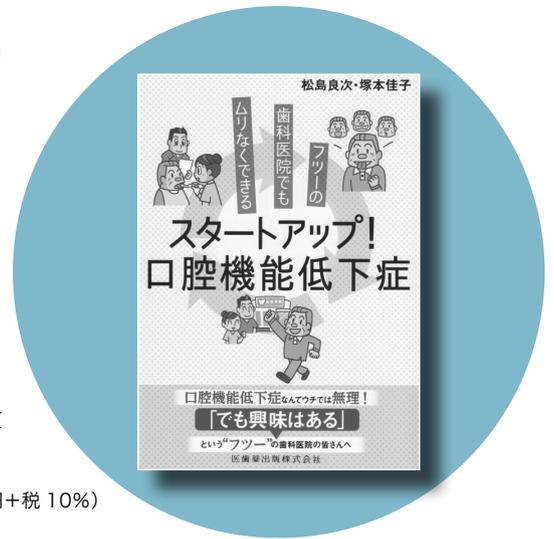
松島良次・塚本佳子 著



Reviewer

牧野 明 Akira Makino
(富山県・まきの歯科医院)

B5判, 128頁
カラー
定価 5,500円
(本体 5,000円+税 10%)
医歯薬出版刊



口腔機能？ 摂食嚥下障害？ これまであまり馴染みのない言葉であったことから、どこか他人事のように思えて手を出せないで来た... いやむしろ遠ざけてきたのが正直なところでした。

そういえば私こと 30 年来、保存が危うい歯をいかに残すかを競うように、その予後、経過観察の結果を次のケースに活かすことを続けてきました。でもそれらは口腔内写真や X 線写真上での「見た目」でしかありませんでした。治療によって機能回復はどこまでなされたのか、経時的変化のなかでその機能は低下していないかの確認、そしてそれへの対処や対応、すなわち口腔機能の評価への取り組みは皆無でした。

歯がある=噛める=食べられる ではないのです。

では、本書の内容を紐解いてみましょう。

◆第 1 章「なぜ一般の歯科医院で「口腔機能低下症」をみるのか」

検査の先にある訓練(トレーニング)が重要です。一見何の問題もなさそう

に見える人の多くが口腔機能低下症と診断されるといいます。齶蝕や歯周病が適切なブラッシング指導と管理によって重症化予防できるのと同じように、口腔機能もトレーニングの習慣化によって重症化予防になることを知ることが重要です。

◆第 2 章「フツアの歯科医院でできる！ 検査のコツ」

患者さんに「なぜ検査するのか」「何を調べるのか」をわかりやすく伝えるために、7つある検査項目を、A) 口腔内状況の検査、B) 咀嚼状況の検査、C) 嚥下状況の検査に分け、症状に合わせて整理しています。

◆第 3 章「フツアの歯科医院でできる！ 訓練のコツ」

前章での検査をもとにした訓練・トレーニングの方法を、イラストや写真を交えて詳説しています。

◆第 4 章「スムーズな検査と訓練のためにおさえておきたい患者さんの“サイン”」/第 5 章「口腔機能低下症への取り組みの実際」/第 7 章「口腔機能低下症への取り組みによって症状が改善した症例」

豊富な経験をもとに、それを全部教

えてくれるのが「患者さんからのサイン」——なるほど、あるある、と納得できました。そして「取り組み」「改善例」の具体例は、私たち初心者の目安になります。

◆第 6 章「普段の診療に + α ！ 算定のポイント」

東京歯科保険医協会前会長である松島先生ならではの、保険の算定の仕方を解説しています。

本書の全編を通して、まずは院長自身が、口腔機能低下症は身近な歯科疾患でありその重症化予防に取り組むべきだとしっかり認識することが重要と理解できます。そのためにも、患者さんとの一定の関係性が構築されていて経時的変化も把握しやすい「メンテナンスが継続されている患者さん」から始めるとよいと記述は、納得できます。そして医院の方針として口腔機能低下症に取り組む号令をかけ、いくつかの機材を取り揃えれば、あとは本書がナビゲートしてくれます。

口腔機能低下症についてあと一歩踏み出せないでいた私たちに、やさしく細かに解説してくれる好著です。